

第18回リバーフロント整備センター研究所報告会

河川・海岸グループ 研究員 広部勝己

平成22年9月10日（金）、科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）にて「第18回リバーフロント整備センター研究所報告会」を開催しました。

この報告会は、当センターの河川や湖沼、海岸などの水辺の自然環境の保全と利用、河川生態の保全や回復、健全な水循環系の回復、川を活かしたまちづくり、災害に強靱な都市の形成、河川景観、舟運などに関する調査研究の成果と最近の話題を紹介し、河川技術者の啓発の場とすることを目的に年1回、「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年度は18回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、140名あまりの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

今年度の報告会では、国際自然保護連合日本プロジェクトオフィス シニア・プロジェクト・オフィサーの古田尚也氏をお招きし、「水辺環境の未来と生物多様性」と題してご講話いただき、その後、昨年度当センターで実施している研究成果から次の7題について発表を行いました。

○発表内容

1. 高水数掘削によるワンド造成の効果と本川への接続形状が生物群集に及ぼす影響（モデル河川での試験結果：円山川）

要旨：本川との接続形状と断面形状が異なるワンド群を試験的に造成し、物理・化学環境および生物群集（魚類・植物）の変遷を追跡調査し、湿地再生の一手法となるワンドの技術的手法に関する試験結果をとりまとめ。

2. 石狩川水系忠別川における砂州環境保全手法に関する研究

要旨：ダム運用前に礫河原を有していた河川環境の保全と樹林化の拡大抑制に資することを目的とした河道内工法の効果等について、平面二次元解析により検討。

3. 真駒内川における礫河床の再生計画

要旨：礫河床再生の試みに関する観測調査と効果の検証、堆積メカニズムの解明等の検討結果を踏まえ、「礫河床再生計画（案）」を作成。

4. 河川における生物調査データの体系的な管理手法の検討

要旨：河川水辺の国勢調査およびそれ以外の国交省

による生物調査を組み合わせる河川環境情報を体系的にとりまとめ管理を行う、Web-GISシステムを構築。

5. 流水性コクチバスに主眼を置いた河川における外来魚の個体数推定について

要旨：コクチバスを対象とした河川における個体数推定法の考え方を示し、阿武隈川をモデル河川とした個体数推定法の開発。

6. 過密都市における河川の風道・冷却効果について

要旨：目黒区内の目黒川とその周辺地域の気温分布および風の動態の把握を行い、熱環境改善対策（リバーウォーク、護岸緑化、打ち水）の効果を検証。

7. 河川におけるDNA多型分析技術の適用について

要旨：河川で実施された事例を収集・分析し、DNA多型分析と河川事業のニーズの適合性について考察し、DNA多型分析による外来種対策の可能性について研究。

なお、今回の発表内容を含めた平成21年度の調査研究の成果は「リバーフロント研究所報告 第20号 2010年9月」に取りまとめて発刊するとともに、当センターホームページ「リバーフロント研究所報告」(<http://www.rfc.or.jp/rp/index.asp>)にてダウンロードが可能ですので、是非ご活用下さい。

皆様からいただいた様々なご意見をふまえて、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



古田シニア・プロジェクト・オフィサーのご講話



当センター職員による発表